

長野市立長野高等学校

IC³(アイシースリー)やMOS試験は、進学や就職時の武器

資格取得で身につけたスキルを実践に活かす、将来を意識した学習体系

県下唯一の市立高校として、現在は男女合わせて約 500 人の生徒数を有する長野市立長野高等学校。2008 年度より、男女共学の長野市立長野高等学校（総合学科）として学科改編・学校名が刷新された同校では、学校内で受験できる環境が整備されており、IC³（アイシースリー）やマイクロソフト オフィス スペシャリスト（以下、MOS 試験）※に取り組んでいます。これらの資格試験が導入された経緯や取得後の学生の意識の変化などについて、情報科 教諭 阿部 栄智さんと商業科 教諭 樽沼 徹さんにうかがいました。

資格試験の取り組み経緯

―― 高度な資格取得ニーズが契機に

2008 年度より、これまでの女子校から男女共学の新しい高校としてスタートした長野市立長野高等学校。

同校は、1919 年（大正 8 年）に開校された『市立長野実科高等女学校』を前身としています。

この女子校は、その後、数度の合併と名称変更を経て、1963 年に市立第二高等学校と統合。統合後は、長野市立皐月高等学校（普通科と被服科を併設）という学校名として 45 年にわたり多くの学生を送りだしてきました。

学内における資格試験の取り組みは、この皐月高等学校という名称だった 2006 年からはじめられました。

「皐月高校の頃は、情報コースのなかでの学習目標に沿って、さまざまな検定や資格の取得に取り組んでいました。しかし、学習が深まるにつれて、より高度な資格取得を目指す生徒が現れはじめたことから、コンピュータの操作から情報関連の知識まで幅広く学習できる IC³（アイシースリー）を授業や部活動に導入しました」

この IC³の導入を契機に、2007 年には学校で試験を実施できる試験会場登録を行い生徒が学内で資格試験を受けられる環境を整えたとのこと。さらにその後、生徒たちが地域に住む方々にコンピュータの操作方法を教える『パソコン講習会』を実施することとなり、「総合的な学習の時間」のなかで、IC³に続いて MOS 試験の Word と Excel[®]にも取り組むことになりました。

「この『パソコン講習会』の経験は、学校で学んだことを地域の方々に還元できるのみならず、資格取得のための勉強によって身につけた

スキルが、”実際にどのように役立つのか”ということを実践を通して認識することができたため、生徒にとってとても良い機会になったと思います」

授業における資格試験の導入

―― 校内で受験できる環境を整備

現在の長野市立長野高等学校では、IC³は 2 年生の選択科目「情報リテラシー」（商業教科の学校設定科目）の授業で、そして MOS 試験は 2 年生と 3 年生共修の選択科目「アプリケーション実習」（商業教科の学校設定科目）と 3 年生の選択科目「情報実習」（情報科目）の授業で資格取得が一つの目標とされています。これらの科目は、1 年時の必修科目「情報 B」で学習してきたことを基に、さらに学習を深めたいとする生徒が履修しているそうです。

IC³の受験が必須とされている「情報リテラシー」では、コンピュータの操作方法や情報に関する知識を中心とした座学 50%、実習 50%の割合で授業が進められており、生徒は、コンピュータのシステム設定やオペレーティングシステムの働き、周辺機器との接続やプログラムの登録などといった実習を交えながら IC³の取得を目指しています。

また、「アプリケーション実習」では、MOS 試験の Word と Excel の受験が必須とされており、「情報実習」では、生徒の進路や興味に応じて、MOS 試験をはじめとする各種の検定試験への取り組みやコンピュータの組み立て、VBA を利用したアプリケーション作成などの実習を行っています。

「IC³は、コンピュータに関する知識を広く身につけることができるため、本来ならば情報分野を学びたい生徒の基礎科目として定着させたいところです。今後も、実習を交えながら生徒が楽しく学べるような授業を行っていきたくと考えています」



IC³の学習内容を実践で体験

※ マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS 試験)
Microsoft® Office 製品(Excel や Word、PowerPoint 等)の利用スキルを証明するマイクロソフト主催の資格試験。試験は約 200 の国と地域で実施され、合格認定証は世界共通。資格取得のための学習を通じて社会人に必須のスキルが身につくことから、ビジネスに有用なパソコン資格として幅広い層に支持されている。

■Microsoft、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
■INTERNET COMPUTING CORECERTIFICATION IC³ は、Certiport Inc. の登録商標または商標です。

受験に際しては、校内に受験しやすい環境が整えられており、放課後は試験勉強用にコンピュータ教室が開放されています。さらに、同校の卒業生であれば、卒業後に受験できる体制も敷かれています。

こうした学習環境の充足と併せて、受験時にも以下のようなきめ細かいアドバイスを行っています。

「生徒が受験する際には、学校が設定した合格ラインを超えてから受験の申込みをするよう促しています。生徒の学習状況の進捗に応じて試験日を調整できる点は、試験会場登録をしているメリットの一つですね」

資格取得がさらなる学習意欲の向上に —— 資格で得たスキルを幅広く活用

IC³を活用した授業を通じてコンピュータとインターネットに関する学習を深めた生徒は、ネット上の専門サイトで情報を収集しながら、自分でパソコンを組み立てたり、既存のコンピュータの性能を高めることができるようになるなど、知識と実践の両面からコンピュータを使いこなすスキルを習得しています。

現在、IC³ や MOS 試験を受験する生徒の多くは、経営、経済、経営情報学科のある大学への進学や、事務職への就職を希望しています。同校では、推薦入試で大学を目指す生徒も多いため、これらの資格は大きな武器になっているそうです。さらに、これらの資格取得で力をつけた生徒は、『IT パスポート』や『基本情報技術者試験』などといったその他の資格取得も目指すようになるなど、学習意欲の向上にもつながるといった相乗効果も大きいと感じておられるとのこと。

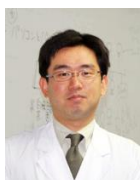
長野市立長野高等学校
<http://www.nagano-njn.ed.jp/ichinagahs/>

所在地 長野県長野市大字徳間 1-133 番地
学生数 489 人 (2011 年 5 月現在)

1919 年(大正 8 年)に市立長野実科高等学校として開校。その後、数度の合併と名称変更を経て、1963 年(昭和 43 年)に市立第二高等学校と統合し、普通科と被服科を併設する長野市立豊月高等学校となる。2008 年度(平成 20 年度)より長野市立長野高等学校(総合学科)として学科改編され、第一期生が入学。これまでの女子校から、男女共学の新しい高校がスタートした。県下唯一の市立高校で、489 人(男子 180 人、女子 309 人)が新校舎にて諸活動に励んでいる。2011 年(平成 23 年)3 月、第一期生が卒業。国立大学をはじめ 90%以上の生徒が進学している。



情報科 教諭
阿部 栄智さん



商業科 教諭
樽沼 徹さん